

# 貧困家庭と子どもの可能性 ～心の安全基地の重要性～

講師：神田奈保子（BANSO-CO CSアドバイザー）

2024年3月



# 今日の内容..

---

1 : 貧困家庭と子どもの現状

2 : 愛情と安全基地



# 神田奈保子 かんだなおこ



---

専門：心理学、保育学、教育学

---

資格：公認心理師、学校心理士、幼稚園教諭専修、保育士、

---

ガイダンスカウンセラーsv

---

略歴☆

- ・大学院で児童心理学修了後、保育現場にて保育士として勤務。
- ・専門学校・短大・大学で10年登壇。
- ・保育系企業(客員研究員)、教育心理研究所(所長)、療育センターなどで、行政依頼などの講演やアウトリーチ型のカウンセリングを 多数担当。
- ・コンサルティング企業の人材開発室勤務。
- ・現在は、予防や愛着関係を専門とするカウンセリングルームと、予防を中心としたカウンセリングルームで活動

# 1：貧困家庭と子どもの現状

## (2) 「子供の貧困対策に関する大綱」について

法では、「政府は、子どもの貧困対策を総合的に推進するため、子どもの貧困対策に関する大綱を定めなければならない」（第8条1項）とされていることから、政府は「子供の貧困対策に関する大綱」をまとめ、2014年8月29日に閣議決定しました。

子供の貧困対策に関する大綱では、社会経済情勢の変化、子供の貧困に関する状況の変化、本大綱にも続く施策の実施状況や対策の効果などを踏まえ、おおむね5年ごとを目途に見直しを検討するとされており、法改正の趣旨などを勘案し、有識者会議での議論などを経て、2019年11月29日に新大綱（以下「大綱」という。）の策定が行われました。

### 大綱に掲げる事項（法第8条2項）

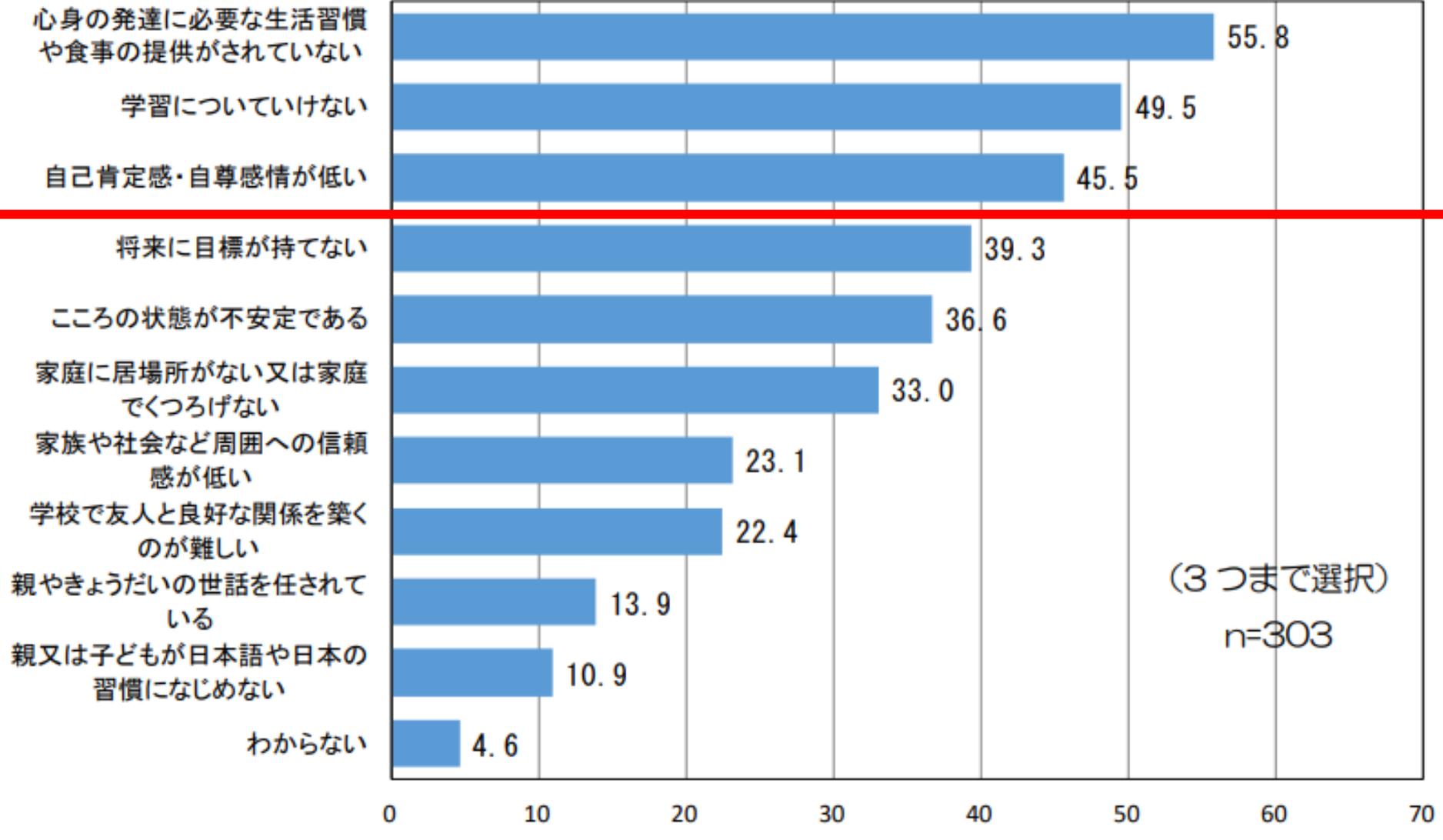
- 1 子どもの貧困対策に関する基本的な方針
- 2 子どもの貧困率、一人親世帯の貧困率、生活保護世帯に属する子どもの高等学校等進学率、生活保護世帯に属する子どもの大学等進学率等子どもの貧困に関する指標及び当該指標の改善に向けた施策
- 3 教育の支援、生活の安定に資するための支援、保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援、経済的支援その他の子どもの貧困対策に関する事項
- 4 子どもの貧困に関する調査及び研究に関する事項
- 5 子どもの貧困対策に関する施策の実施状況についての検証及び評価その他の子どもの貧困対策に関する施策の推進体制に関する事項

大綱では、子どもの貧困に関する39の指標を設定しており、この指標の改善に向けた重点施策として、以下の4つを明示しています。

- ① 教育の支援
- ② 生活の安定に資するための支援
- ③ 保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援
- ④ 経済的支援

・ 子どもの支援者・相談者を対象とした「子どもの貧困に関する意識調査」

貧困な状況にある子どもの困難について(現在の課題)



## ○調査から見える子どもの困難さ



心身の発達に必要な  
生活習慣や食事の  
提供がされていない



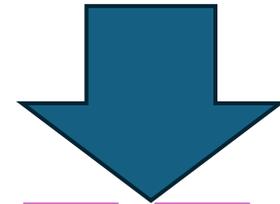
- ・生きていくための環境が整いにくい
- ・子どもの人権問題
- ・生活の質の低さ

学習について  
いけない



- ・将来の選択肢が  
少ない

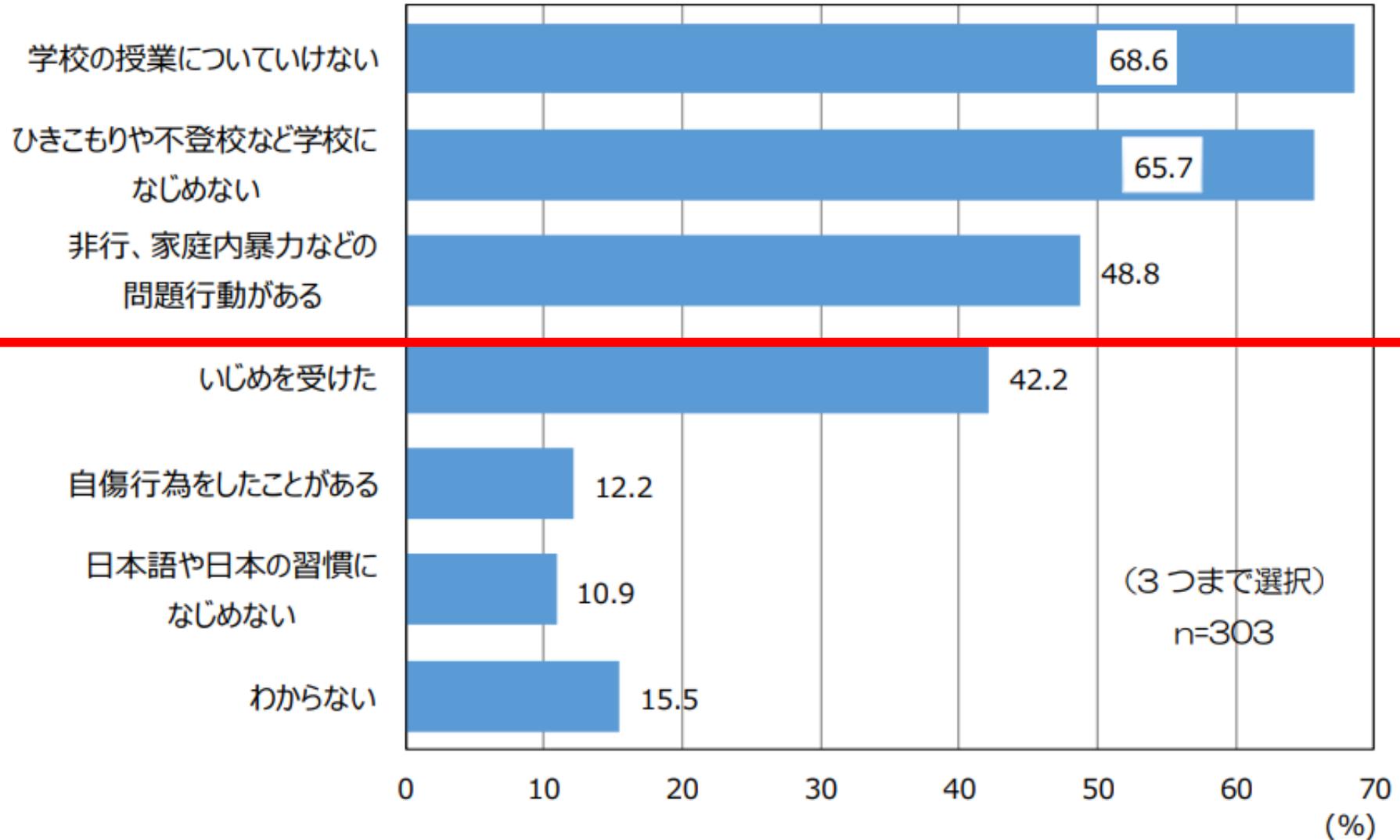
自己肯定感・  
自尊感情が低い



- ・自己理解や自我の  
形成に問題を  
与える

・ 子どもの支援者・相談者を対象とした「子どもの貧困に関する意識調査」

貧困の状況にある子どもの過去の経験について

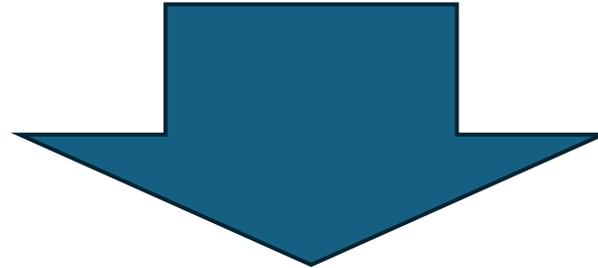


## ○調査から見える貧困状況にある子どもの過去の経験

学校の授業について  
いけない

ひきこもりや不登校  
など学校になじめな  
い

非行、家庭内暴力な  
どの問題行動がある



- ・ 成功体験より失敗体験の方が多可能性
- ・ 居場所がない
- ・ 愛情を感じる体験（人の温かさ）を感じる機会が少ない
- ・ 自己肯定感、自尊心の形成が難しい

## ○子どもの貧困と虐待環境

- ・子どもの貧困家庭は、子どもの権利が守られにくい環境  
→生活困窮家庭では、物理的・質的に子どもとの関りが少ない環境になる可能性が高い。

大人

余裕がない

- ・稼ぐ必要がある
- ・愛情表現が伝わりにくい

子どもの理解が  
難しくなりやすい

子ども

親の状況を  
よく見ている

- ・我慢や顔色を見る  
ことが多くなる
- ・愛情を感じにくい  
状況

- ・親子関係が歪んで  
くる
- ・自分の相談が  
できない

→子どもの権利が守られない/守られにくい環境 = 虐待環境の可能性が高くなる

## ・ 児童虐待の現状

[神奈川県] 児童虐待相談対応件数の推移（内容別）

	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)
身体的虐待	2,774件 (27.2%)	2,916件 (25.1%)	3,018件 (24.7%)	3,293件 (23.6%)	3,697件 (21.4%)
保護の怠慢 ないし拒否	2,436件 (23.9%)	3,077件 (26.5%)	3,099件 (25.4%)	3,165件 (22.7%)	3,420件 (19.8%)
心理的虐待	4,833件 (47.4%)	5,455件 (47.0%)	5,923件 (48.6%)	7,334件 (52.7%)	9,948件 (57.6%)
性的虐待	147件 (1.4%)	147件 (1.3%)	154件 (1.3%)	136件 (0.98%)	207件 (1.2%)
合計	10,190件 (100%)	11,595件 (100%)	12,194件 (100%)	13,928件 (100%)	17,272件 (100%)

(県福祉子どもみらい局「子ども家庭課調べ」より作成)

※児童虐待相談対応件数には、政令市・中核市分を含む。

## 児童相談所での虐待相談の内容別件数の推移

○ 令和3年度は、心理的虐待の割合が最も多く、次いで身体的虐待の割合が多い。

	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	心理的虐待	総数
平成22年度	21,559( 38.2%)	18,352( 32.5%)	1,405( 2.5%)	15,068( 26.7%)	56,384(100.0%)
平成23年度	21,942( 36.6%)	18,847( 31.5%)	1,460( 2.4%)	17,670( 29.5%)	59,919(100.0%)
平成24年度	23,579( 35.4%)	19,250( 28.9%)	1,449( 2.2%)	22,423( 33.6%)	66,701(100.0%)
平成25年度	24,245( 32.9%)	19,627( 26.6%)	1,582( 2.1%)	28,348( 38.4%)	73,802(100.0%)
平成26年度	26,181( 29.4%)	22,455( 25.2%)	1,520( 1.7%)	38,775( 43.6%)	88,931(100.0%)
平成27年度	28,621( 27.7%)	24,444( 23.7%)	1,521( 1.5%)	48,700( 47.2%)	103,286(100.0%)
平成28年度	31,925( 26.0%)	25,842( 21.1%)	1,622( 1.3%)	63,186( 51.5%)	122,575(100.0%)
平成29年度	33,223( 24.8%)	26,821( 20.0%)	1,537( 1.1%)	72,197( 54.0%)	133,778(100.0%)
平成30年度	40,238( 25.2%)	29,479( 18.4%)	1,730( 1.1%)	88,391(55.3%)	159,838(100.0%)
令和元年度	49,240( 25.4%)	33,345( 17.2%)	2,077( 1.1%)	109,118(56.3%)	193,780(100.0%)
令和2年度	50,035( 24.4%)	31,430( 15.3%)	2,245( 1.1%)	121,334(59.2%)	205,044(100.0%)
令和3年度	49,241( 23.7%) (▲794)	31,448( 15.1%) (+18)	2,247( 1.1%) (+2)	124,724(60.1%) (+3,390)	207,660(100.0%) (+2,616)

※ 割合は四捨五入のため、100%にならない場合がある。

※ 平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値である。

## ○マルトリートメント

- ・「不適切な関り」
- ・マルトリートメントは、放置しておくると虐待に繋がる可能性が高い。  
→法制度で定義されている虐待だけでなく、「虐待に繋がりそうなケース」も意識していく事が重要  
→マルトリートメントの状況は、脳の変形など大きな影響を与える。
- ・保護者が気が付いていないこともある。



## ○子どもの現場で見られる子どものサイン

- ・子どもは、言語面よりも生活習慣、目線、態度など日常生活の中でサインを出すことが多い。

行動・  
情緒面の変化

不潔

食べ方

発達の  
アンバランス感



言語面の低さ

自己  
判断の低さ

大人との距離  
感の難しさ

など...

## ○早期発見の重要性

- ・被害をできるだけ最小限にするためには、**早期発見が重要**  
そのために…

### ①日頃からスタッフ連携

日頃の子どもの様子をしっかりと捉える **(観察・理解)**

### ②知識を持つこと

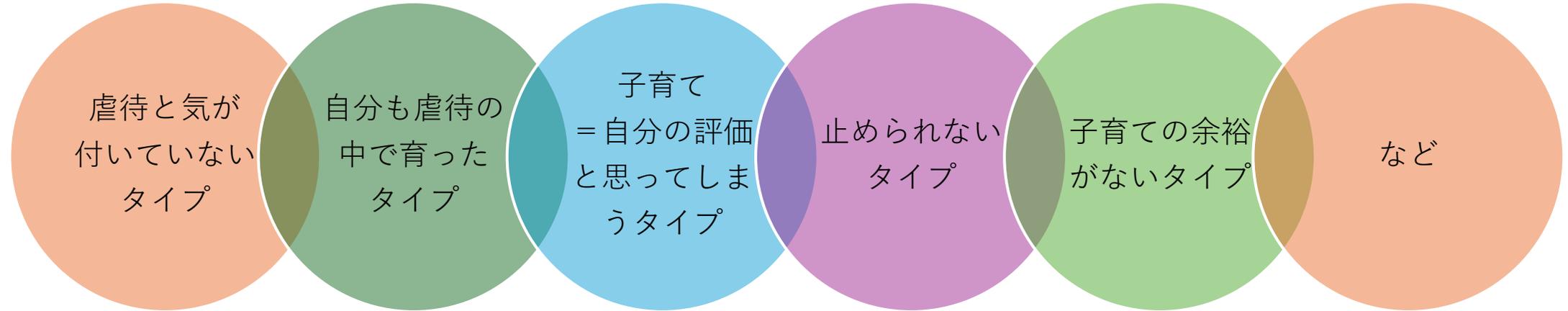


保護者とコミュニケーションを取りながら、その情報を基に信頼関係をつくり、**必要な時に迅速に保護者支援が行えるように準備する**（信頼関係の構築）

- ・児童虐待の防止に関する法律第5条（児童虐待の早期発見等）の第1項の中で子どもの現場など「組織（団体）」についても早期発見の義務が明記されている。
- ・児童虐待の防止に関する法律第6条（児童虐待に係る通告）では、通告の義務が明記されている。

## ○虐待傾向にある保護者の背景

- ・虐待は愛情不足から起こるとは言いきれない。  
→色々な保護者のタイプがある。

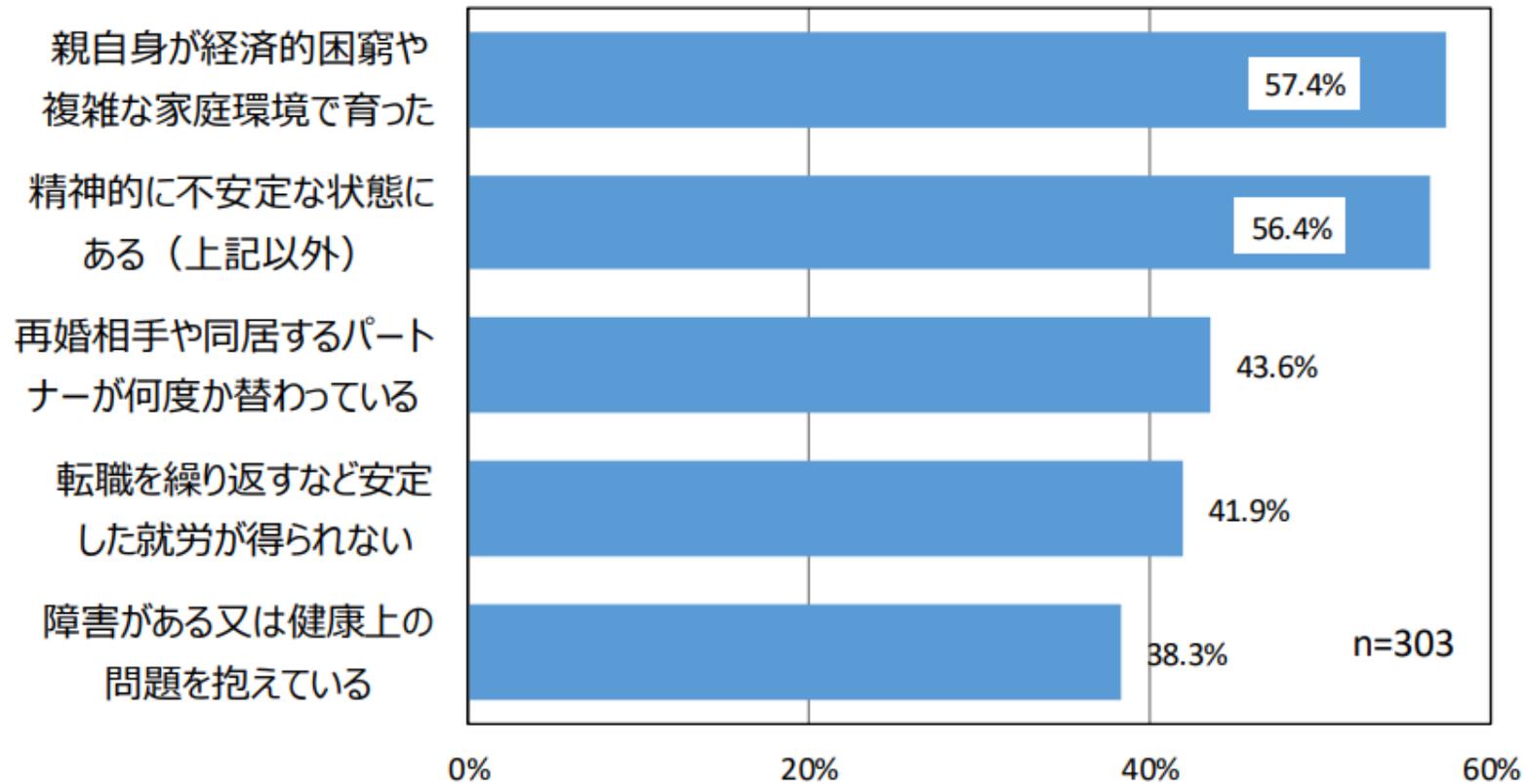


- ・保護者自身が追い込まれている可能性も視野に入れて対応すること  
→虐待は犯罪

保護者にどんな理由があっても子どもの権利を害することは認められない。

## 貧困の状況にある子どもの家庭や親について（上位5項目）

（3つまで選択）



（「子どもの貧困に関する意識調査」より一部抜粋）

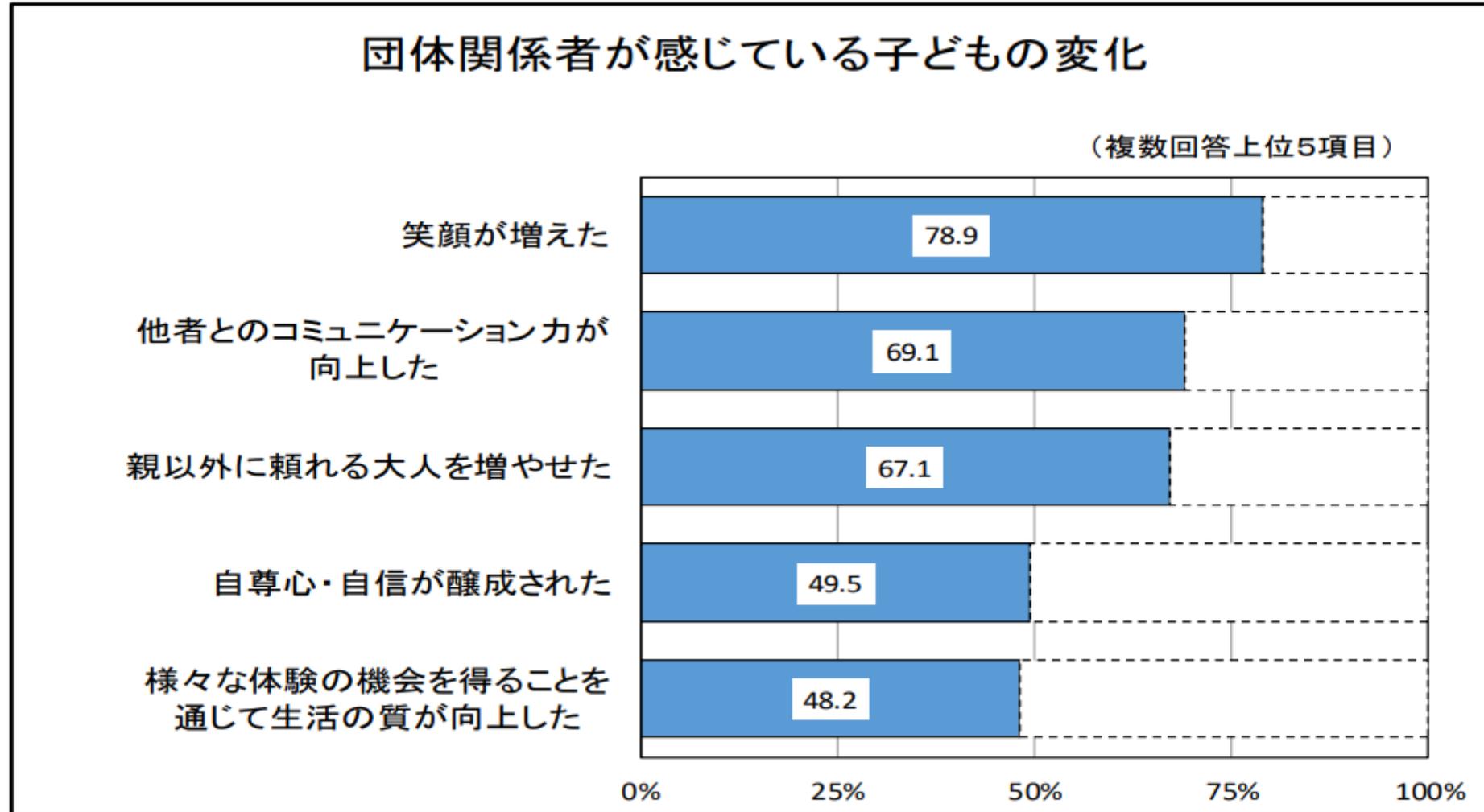
- ・ 支援者側にコミュニケーションスキルが求められる。

## ○地域の子どもの居場所の広がり

1都3県	こども食堂数		増加数	増加率 (%)	充足率 (%)	充足率順位	充足率増加 (ポイント)
	2019年	2018年					
東京都	488	335	153	45.7	36.6	3	11.4
神奈川県	253	169	84	49.7	28.5	8	9.5
埼玉県	173	83	90	108.4	21.2	12	11.0
千葉県	99	62	37	59.7	12.3	27	4.6

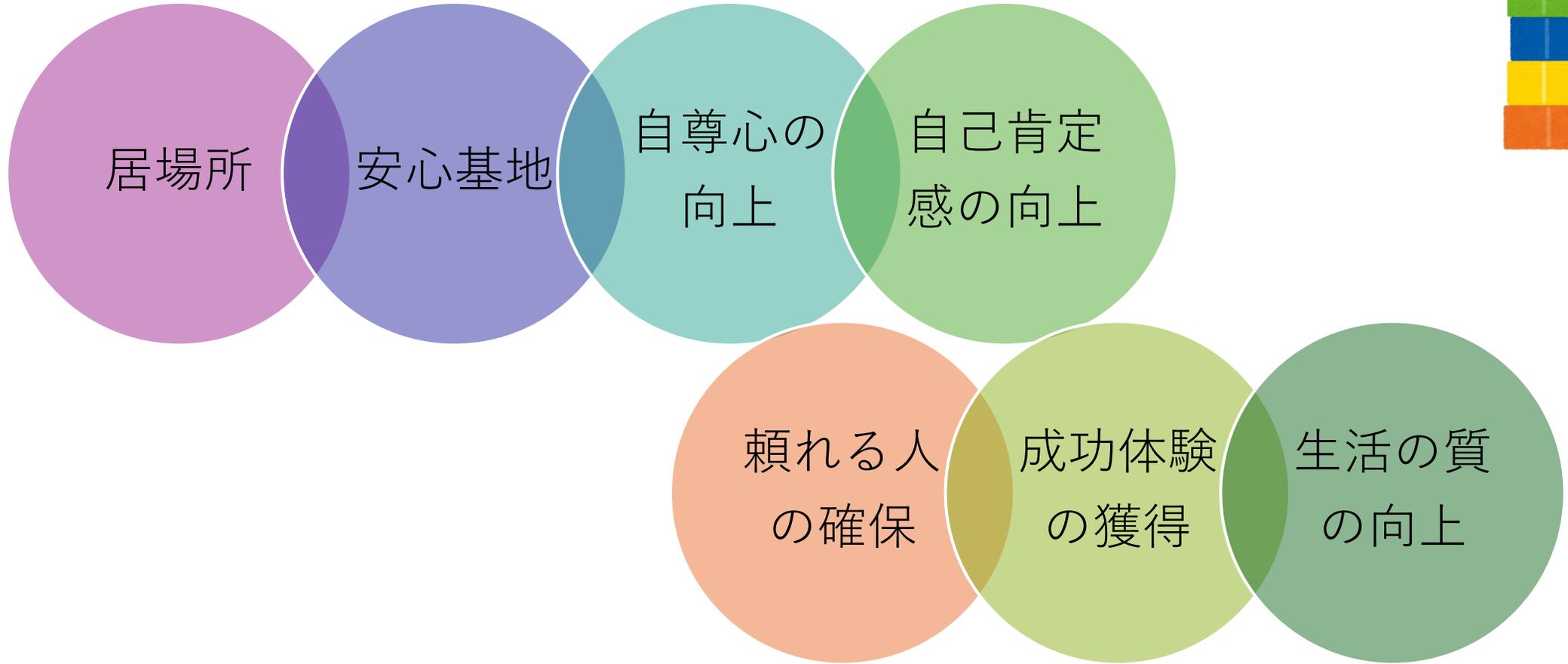
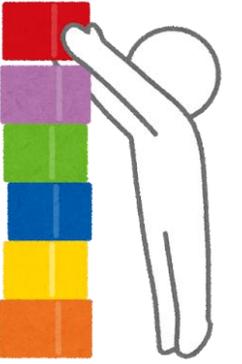
(NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえ「プレスリリース資料」より作成)

## ○地域の子どもの居場所の広がり



(内閣府「平成30年度(2018年度)子供の貧困に関する支援活動を行う団体に関する調査報告書」より作成)

# ○子どもの居場所で期待できる効果



→関わる大人が、効果を意識しながら行動・発言を行っていく事が求められる  
子どもを支援する現場 = 子どもの将来に繋がる場所

## ○子どもの貧困」に関する対応

- ・ 現在、17歳以下の子供の貧困率は13.9%、7人に1人は貧困
- ・ 貧困の中心になる“経済的困窮”は、健康や発達の不足、低い自己肯定感、家庭間の諸問題、虐待・ネグレクト等に繋がる。  
→さまざまな不利と結びつきやすい不利の蓄積
- ・ 子どもの現在だけでなく、未来の可能性も奪ってしまう可能性が高い。



・ 子どもの貧困（引用；子ども家庭庁HPより）

生まれ育った家庭やさまざまな事情から、  
健やかな成長に必要な生活環境や教育の機会が確保されていない子どもがいます。

児童養護施設を退所した後の  
生活基盤が不安定。

人とのつながりが少なく、  
社会的に孤立している。

高校や大学、専門学校などに  
進学したいけれど、  
経済的理由であきらめている。

子どもだけの時間が多く、  
保健衛生などの知識や  
習慣が身につかない。

「頑張っても仕方がない」と  
将来への希望をなくし、  
学ぶ意欲をなくしている。

視野を広げる機会や  
文化的な体験に乏しく、  
「こんな人になりたい」という  
ロールモデルがない。

栄養バランスのとれた食事は、  
一日の中で給食しかない。



- ・子どもや家庭への経済支援は「神奈川県子どもの貧困対策推進計画」のなかでも言われているが、メンタル面のケアについては大きく触れられていない。



日常の支援でできる心のケアは、  
何が挙げられますか？

- 心と命の両方を守る支援が必要になる。  
心を守る支援は、こども食堂や居場所（児童クラブなど）、学校、保育園等  
様々な所で可能

## 2：愛情と安全基地

○愛とは何か？



子どもに対して、愛情表現は  
どのようにしていますか？

## ○愛とは何か？

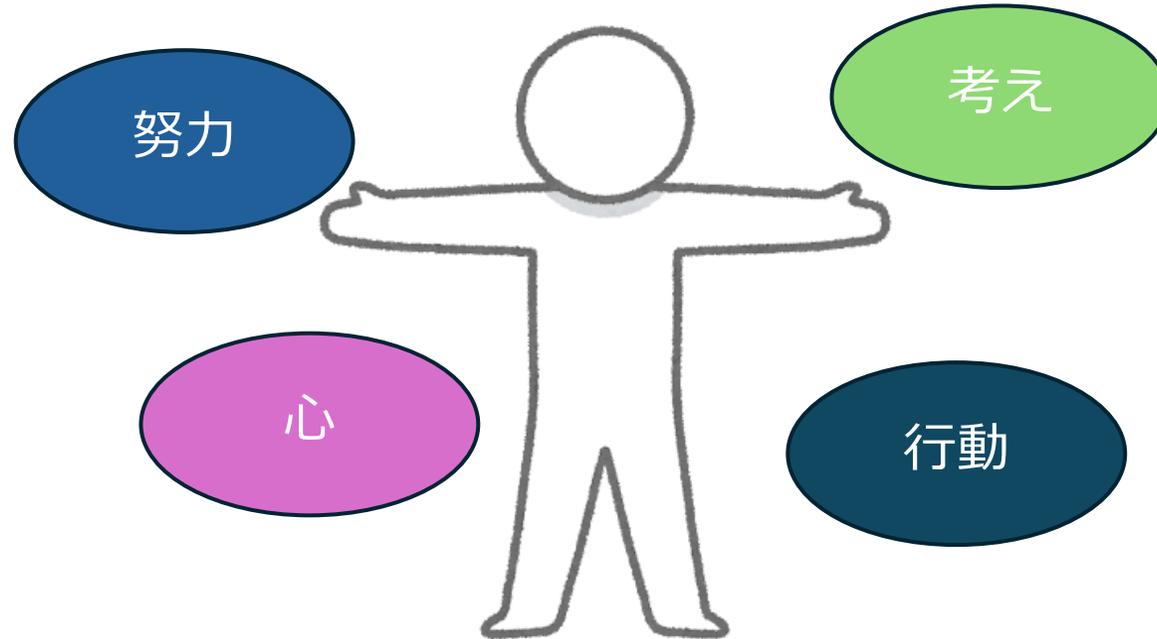


子どもに対して、愛情表現は  
どのようにしていますか？

- ・ 愛には色々な形がある。  
→子どもに与えすぎるよりも、ひとりひとりに合わせて与える量を考えていくことも大切  
→バランスが重要。褒めると叱る、与えることと減らすこと、関わることと見守ること
- ・ 変わらないものは、ルールや子どもに向かう姿勢 = 安心感に繋がる

## ○自分を愛するということ

- ・「ありのままの自分」を認めること
- 自己を肯定すること
- 「何ができる」「これが得意」等スキルや存在意義を探したり、  
答えを見つけたりするのではなく、そこに在ることを大切にする。



→子どもが自分を好きになれるきっかけを大人が作る。

## ○気がつきにくい虐待の存在

- ・虐待の環境は「目に見えるもの」「サインが出せるもの」と思ってはいけない。
- ・気が付かない虐待を抱え、消化しないまま大人になると多くの生きにくさに繋がることも多い。

共通して良くみられる特徴…

子どもの頃に頼れる  
大人がいなかった…

誰も助けてくれな  
かった

他の環境を知らない  
為、当たり前だと  
思っていた…

居場所って何？  
こころの居場所はな  
かった

## ○子どもの心の傷

- 子どもの頃に傷つけられた経験や記憶は、人生に大きな影響を与えることが多い。  
→子どもの頃に多くの価値観が身に付くため、長期にわたり影響を与える。
- 大人は、子ども時代だけの問題ではないと理解する必要がある。  
=子ども時代から生きにくさはスタートする。
- 子どもの心の傷は、目に見えにくいため気付かれにくい。



気付かれにくい心の傷に  
対してどの様に対応すれば  
いいでしょうか？

## ○アダルトチルドレン（AC）

・アダルトチルドレンは「子ども時代に親や養育者との関係の中で負ったトラウマ（心的外傷）が原因で、現在の生きづらさや人格形成への影響を感じている状態を示す概念」

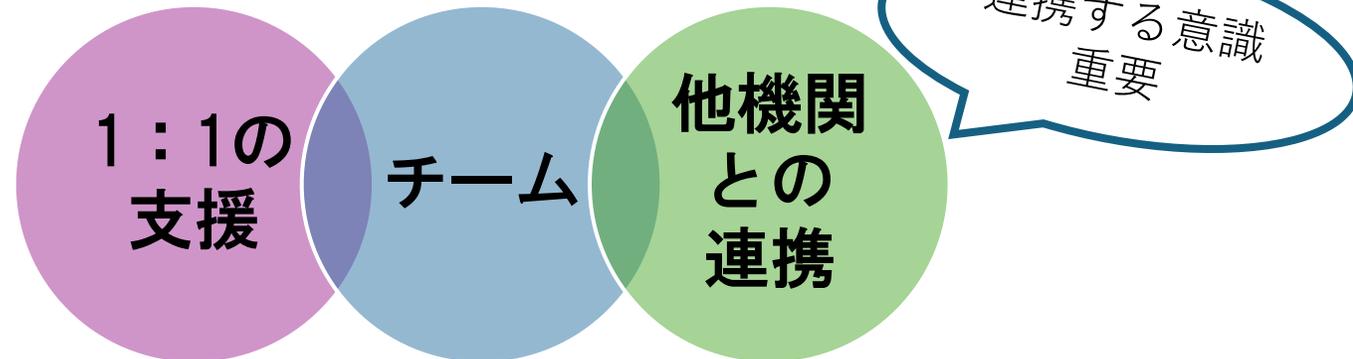
Love♡ 

・生活する上で様々な難しさを感じている

人付き合い	<b>自然体になれず、人の顔色ばかり見てしまう</b> ☆小さな嘘をつく、助けが求められない、人の目が気になる、距離感が分からない、相手の反応で一喜一憂、我慢する
恋愛	<b>依存的になりやすい</b> ☆愛されているか不安、素直に甘えられない、ケンカできない、都合よく扱われる、別れられない
仕事	<b>頑張る自分を演じがち。無理しがち。ミスや仕事のミスが多い</b> ☆優柔不断、ヘルプが出せない、工夫ができない、不満でいっぱい
思考	<b>自信が持てず、自分を責める思考が多い</b> ☆べき思考、自分を責める、0か100か、うまくいかない前提
本音	<b>愛情と承認に飢えている</b> ☆愛されたい、認めてほしい、一番でいてほしい、自分の本音が分からない

## ○愛着の問題

- ・愛着障害や反応性愛着障害はドクターのみが判断できる  
→障害かどうかよりも、子どもにとって愛着関係を形成することは重要であり、必要不可欠という意識を持つ。
- ・愛着障害や反応性愛着障害は、後天性（生まれた後）だが、発達障害は、先天性である。  
→似ている行動などを見せることが多いが、先天性と後天性では違う。
- ・愛着の問題は、親の養育を受けられない場合や虐待が要因とは限らない。  
→愛情の行き違いなどでも起こる。
- ・愛情が必要な子どもに対して現場で重要なこと…



- 子どもの心を縛る大人の教え

→何気ない子どもの接し方も、子どもにとって傷つけることやACに繋がる可能性がある。



人に迷惑を  
掛けない

親の言うことは  
聞きなさい

我慢しなさい

そんなことで  
泣かないの

男の子でしょ、  
女の子でしょ

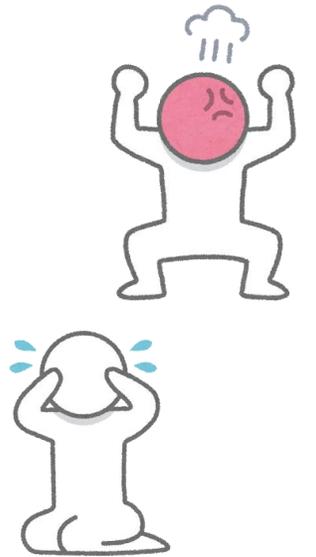
• 自己肯定感の低い人と高い人の差

→自己肯定感が低い人には「自己卑下タイプ」「傲慢タイプ」がある。

共通点は、自分に自信がないこと。



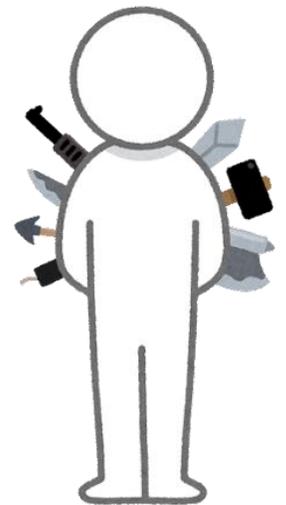
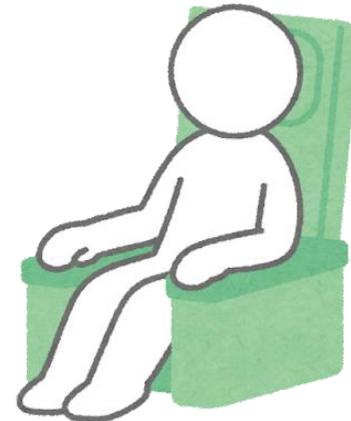
	自己肯定感高い	自己肯定感低い
自己認識	ありのままの自分を受け入れられる	卑下：自分には何も無い 傲慢：自分はすごい
周囲との関わり方	自分の意見も他人の意見も大切	卑下：みんなは正しい、自分は間違い 傲慢：自分は合っていてみんなが違う
トラブル時	課題と向き合うことができる。自己反省するが卑下はしない	卑下：全部自分のせい 傲慢：自分は悪くない！ 相手が全部悪い！



→自己肯定感が低いと、生きていく上でこじらせてしまうことが多い

## ○愛されて育った人の特徴

- ・愛されて育った人は、心の安全基地を形成している。  
→心の安全基地は、自己肯定感・安定した人間関係が築ける、メンタルが安定しやすい、失敗から多くを学ぶ力がある。
- ・基地があると「失敗しても大丈夫」「戻って来れる場所がある」ことを知っているため、安定している。  
→安全基地がないと「戻る場所がない」「失敗したらおわり」という思考になりやすいため、不安定なことが多い。
- ・心と体の安全基地が重要になる  
→心の安全基地を1つでも増やすお手伝いを！



東京医科歯科大学発ベンチャー

あなたのそばに、いつでも頼れる専門家を

# BANSO-CO

BANSO-COは、すきま時間にオンラインで  
専門家（ばんそうメイト）と気軽に話ができる  
WEBサービスです。



「あなたのこと見ているよ」という気持ちを伝えてください。  
大人が求めた反応がすぐ返ってこなくても…  
子どもの心には大きな栄養となっています。

こころとからだに栄養を、たくさん与えてください

